



佐々木小

令和3年12月24日

第8号

佐々木小学校

新発田市則清 856

TEL.0254-27-2011

「水を飲ませることはできない」と言うけれど

校長 齋藤 博敏

早いもので、もう2学期の終業を迎えます。「2学期の毎日の学校生活が、子どもたち一人一人の成長につながっていた」と信じたいこの頃です。「教える」と一口に言いますが、教えたことが子どもたち一人一人の力になるようにするのは、簡単ではないからです。

イギリスに伝わることわざにこんな言葉があります。

「馬を水辺に連れて行くことはできても、水を飲ませることはできない」
(You can take a horse to the water, but you can't make him drink)
馬が水を飲むかどうかは馬次第なので、人は他人に対して機会を与えることはできるが、それを実行するかどうかは本人のやる気次第であるという意味。

人も同じです。例えば子どもに無理矢理「勉強をなさい」とたくさんの教材を買い与えても、子どもにやる気がなければ全く効果がないですよ。

日本がまだ豊でなかった時代、子どもが勉強しようと思ってもなかなか勉強できる環境は得られませんでした。そんな中でも、一生懸命勉強して目標を達成した人もいれば、家庭の事情等で、小学校を出ただけで働かざるを得なかった人たちもいました。当時は、勉強しようと思っても、十分に勉強できる環境が整っていませんでした。ことわざの馬にたとえて言うのは失礼かとは思いますが、子どもたちは「のどが渴いて、水が飲みたい」状態だったのです。ですから自力で水辺に行き、自力で水を飲みました。

現代はどうでしょうか。ほとんどの子が勉強できる環境は整っています。子どもたちは、今、「水が飲みたい」でしょうか。どんなに周りがかんばっても、本人の意欲がなければ勉強させることはできません。本当にやる気を出せるのは、自分自身しかいないのです。そうは言っても、子ども自身が「やる気を出す」まで待ってられません。あっという間に大人になってしまいます。ですから学校では、子どもがやる気を出すように、教師が、働きかけを工夫して指導してきたつもりでいます。不十分さは多少なりともあったとは思いますが...



ちなみに東京大学で脳科学を研究されている池谷裕二教授は「やり始めないと『やる気』は出ない。人間は行動を起こすから『やる気』状態になる。つまり『やる気』スイッチをONする秘密は、脳よりも身体にある。まず身体を動かしてスイッチを入れることが大切」とおっしゃっています。

明日から冬休みです。冬休みは夏休みに比べ短いですが、クリスマスやお正月といった行事、普段とは違ったテレビ番組等、子どもたちには、何かと誘惑の多い休みです。保護者や地域の皆様から見守っていただき、子どもが行動を起こせるよう（やる気になれるよう）働きかけていただきたいと思います。最後になりましたが、

今年も学校のためにたくさんの御理解と御協力をいただきました。保護者の皆様、地域の皆様に、感謝申し上げます。よいお年をお迎えください。

